

台風23号 復興の槌音

竹野



歩道が崩壊した主要地方道日高竹野線（森本区内）。災害に強い幹線道路の整備が待たれる

幹線道路の崩壊で 一時孤立

竹野地域は、県が所管する2級河川「竹野川」が南北に貫流しています。この竹野川は、「1町1河川」という全国でも珍しい川です。円山川と違い水はげがとてよく、ひとたび大雨が降れば一気に増水し、短時間でその水は河口に流れます。

昨年の台風23号でも、周辺市町に比べて出水は早く午後4時ごろから支流をはじめ、多くの箇所では河川が氾濫し、

主要路線が各地で冠水しました。中竹野や竹野南地区などでは、集落間の行き来が不可能となり、足止めを余儀なくされた帰宅途中の通勤者や観光客なども多数ありました。森本地区では、午後6時から7時過ぎ、中竹野地区では午後8時過ぎをピークにして水位は下がり始めました。

幸い竹野地域では、人的被害はなかったものの、20日夕方から21日にかけてほぼ全域で停電があり住民は不安な一夜を過ごしました。また、轟区や小丸区などでは民家が床

つちおと

上浸水し、地域の至る所で道路の崩壊や山崩れなどが発生しました。

なかでも、道路の被害は大きく、竹野地域を南北に走る幹線道路・主要地方道日高竹野線は各所で道路が崩壊し、一時、町は孤立状態となりました。夜が明けるとすぐ緊急の復旧作業が行われ、片側通行が可能となりましたが、大型車の通行にはしばらく時間を要しました。また、豊岡へつながる国道178号は23日早朝まで通行不能となり、日常生活に支障を来しました。

多くの善意で 海岸ごみを一掃

台風23号における竹野特有の被害は海岸沿いに流れ着いた大量のごみでした。円山川などから日本海に流れ出た葦や流木、家庭ごみなど、約4,000立方メートルのごみが一夜にして大浦海岸を埋め尽くしました。当初はこの膨大なごみをどのように処分すれ



大浦海岸に漂着したごみを片付けるボランティアと地域住民

ばよいか途方に暮れましたが、竹野スノーケルセンター・ピジターセンターがインターネットを通じて支援を求めたところ、多くの善意が寄せられ、それが大きな追い風となりました。日に日に寒さを増す日本海で、全国から集まったボランティアの皆さんに住民とともに手作業でごみを一つひとつ片付けていただきました。延べ800人の

地域が分断されても独自で対応できるように地区の防災拠点となる地区公民館の機能を強化しました。これまでから災害発生が予想される場合、2つの地区公民館に職員を配備していましたが、もっと早い段階で計画的に配備するようになりました。また、土のうやバリケード・無線などの資機材、食料品や毛布などの緊急物資などの充実も図りました。

今年9月6日に台風14号が襲来したときは、そうした効果が現れ、各地区では職員が地元消防団とともに早い時間帯から警戒に当たり、災害本部としての役割を果たしました。

「事前準備と初動の大切さ」を痛感した体験がここに生かされています。

教訓を生かし地区 の防災拠点を強化

竹野総合支所では、台風23号を教訓にして

竹野地域位置図



豊岡

9割の住民に

避難勧告・避難指示

全人口の約9割にあたる15,119世帯、42,794人に避難勧告、続いて避難指示が発令されるなど、豊岡地域はかつて経験したことがない大変な事態となりました。台風23号が接近するにつれ、円山川は過去に例をみない勢いで増水し、20日午後9時には、立野地点の最高水位が8.29メートルに達し、昭和34年の伊勢湾台風時の7.42メートルを大きく上回る観測史上最大の数値を記録しました。同日午後11時15分、立野で円山川右岸が決壊、さらに一日



立野地区の円山川右岸の堤防決壊現場。立野大橋には救助のために駆け付けた緊急車両が並び、平成16年10月21日（写真提供：県消防防災航空隊）

市で左岸堤防の一部が欠けてなくなるといふ不測の事態が相次ぎ、豊岡盆地全体が深い泥水の中に沈んでいきました。決壊現場付近の地区では、住民から救助要請が殺到し、21日の夜明けとともに、自衛隊や緊急消防援助隊などの防災機関により、939人が救助されました。また、各地で山の斜面が崩壊し、土砂崩れにより民家が壊されたり、道路が寸断するなどしました。こうした状況により、豊岡地域では、1人の尊い人命が失われ、住家も231棟396世帯が全壊したのをはじめ、5,847棟6,523世帯が

被害を受けました。

円山川の治水対策に 900億円が投入

国はこの甚大な被害にいち早く対応するため、昨年12月、円山川緊急治水対策事業を採択しました。これは、台風23号と同規模の豪雨が降った場合でも、再び同じ被害を繰り返さないために、平成16年から10年間に約900億円をかけて、緊急的かつ集中的に円山川の河川改修を行うものです。この金額は、豊岡河川国道事務所約75年間の予算に相当し、当初5年間は激特事業（河川激甚対策特別緊急事業）として約650億円が投入され、河道整備、築堤、



野上地区では、6月の出水期までに緊急的に堤防の高上げ工事が行われた

内水対策、堤防強化などの事業が行われます。

すでに、出水期に入る6月15日までに立野地区の復旧護岸工事、野上地区の堤防高上げ工事などが完成し、河川水位の低下を図る河道掘削工事も、近いうちに城崎町湯島・戸島地区を皮切りして始まります。

また、一日市・宮島・小田井地内の堤防強化については、関係住民の理解がおおむね得られ、用地測量等に着手されています。

また、県では大浜川、上坂川、奈佐川などの河川改修工事が発注され、江野地区では、災害復旧に伴う土地改良事業が行われることになっています。さらに、市が担当する河川

や市道の復旧工事は、10月末にはすべて発注される予定で、今年度中の完成を目指して工事が進められます。

こうした復興工事が進む一方、豊岡地域には、台風23号の襲来から1年経過するにもかかわらず、土砂災害による避難勧告がまだ26

世帯に出されたままです。自宅で安心して生活できる日が一日も早く来るよう待ち望まれます。

災害の記憶を語り継ぐ

災害から1年を迎え、10月にはさまざまな記念事業が実施されました。19日には、台風23号の浸水水位を示す第1基目の標柱が庄境内に設置され、今後、市内39カ所に順次設置されます。また、被災者追悼の集いやシンポジウムなども開催されました。

次世代の安全安心な生活、愛すべきふるさとを守るために台風23号の記憶を風化させず永く後世に伝える。それがこの災害を経験した私たちに課せられた重大な責務です。

豊岡地域位置図

